路　新　聞　　平成２７年(2015年)８月１４日（金曜日）

SCAN 地域助成事業

市が研究テーマ提示

釧公大など4大学対象に

新たな市民協働の取り組み

釧路公立大など道内の学生たちによる北海道学生研究会SCAN（スキャン、三浦明寛代表）は、釧路市の交付金を活用し、四つの大学研究室を対象にした地域研究助成事業を実施する。若者の交流・定住人口を拡大する仕組みについてという市が提示したテーマについて研究してもらい、12月に成果を報告。優秀な研究は予算・事業化を目指す。民間を対象にした交付金事業に市が直接携わるという新たな市民協働の取り組みとして注目される。（髙田薫）

事業内容などについて発表した三浦代表（中）らスキャンのメンバー

今年度の釧路市輝くまちづくり交付金事業として採用されたことを受けて実施する。市が提示したテーマは「釧路らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す」。人口減少を補完するため、特に15歳～24歳までの若者世代の定住・交流人口拡大のための提言をしてもらい、優秀と認められたものは事業化を検討する。

助成金額は1研究室当たり5万円で、募集に応じた4研究室の事業計画をスキャンの運営委員会が審査して対象を決めた。助成を受ける研究室とテーマは、北海学園大学・宮島ゼミの「北海道の観光マップ」、札幌大学・武者ゼミの「外国人観光客受け入れに関して広域連携の戦略を考える」、釧公大・神野ゼミの「新しいまちづくり観光の実践・釧路街中フットパス導入によるコミュニティの再生」、同・下山ゼミの「地域経済と人口移動の動向分析・釧路地域の愛着度や関係性を考慮した研究」。

13日には釧路市役所でスキャンのメンバーが事業概要を説明。三浦代表は「学生自らが地域の課題と向き合い、主体的に取り組むための貴重な機会」と述べたほか、指導顧問の下山朗准教授（釧公大・経済学部）は「市が地域のことを調査する際の協力態勢をつくるきっかけになれば」と語った。

名塚昭副市長は「まちづくり交付金は、各団体がそれぞれの事業を行う際に助成しているが、今年度はなるべく市も携われる事業を選んだ。今回の試みは本当の意味での市民協働の取り組みになる」と意義を強調した。

釧路湿原の表情豊かに

17日まで横井さんの写真展

釧路湿原を舞台にした作品を前に今後への意欲を語る横井さん

湿原の画家と称される佐々木榮松氏の遺作を収蔵する釧路市阿寒町の釧路湿原美術館（髙野英弥館長）で、置戸町のアマチュアカメラマン横井幸一さん(78)の写真展「雄大な自然　荘厳の美」が開かれている。今年から本格的に通っているという釧路湿原の表情を含む12点を展示し、来館者を楽しませている。

横井さんは60歳で農業を引退した後、青森県八戸市へ移住した際、健康管理も兼ねて趣味を探していたところ、地元の写真展で魅力を感じカメラを手にした。初めて応募した東北での写真展で入賞したことを機に没頭。各地で撮影を続けながら東京や埼玉などで個展を開催している。置戸ぽっぽ絵画館の運営委員を務めていることが縁で、同じ置戸生まれという佐々木画伯の作品に魅了され、釧路湿原での撮影にも取り組むこととなったという。

展示しているのは「無辺な湿原」「静寂など湿原での作品」。これまで撮影した気に入りばかり。画家の作品に囲まれ展示できるのはうれしい舞台を知ることと。釧路湿原といったので、何年かかり通い続けたい」とせている。展示は17営業は午前10時から時までで入場無料。道の駅阿寒丹頂の佐々木画伯の常設展は有料。

プレミアム旅行券販売

釧路市民以外に24日から全国

釧路市民は購入することができない「くしろプレミアム旅行券」が24日から市内を除く全国の一部コンビニなどで一斉販売される。割増率50%のお得な旅行券で、札幌から末まで使える。あくまでどで市外から観光客ていむのが目的で市民外だが、市外に住親戚、知人らに購観光を呼び掛けて